



# Land Rover Discovery3 HSE

家族のための後席を探していたら、意外な実力派を見つけました。

リアシートには特別な時間がある。別段やることがない場所だからこそ、いつもならちょっと口にしなようなテーマが話題に上ったり、秘密を打ち明けちゃったりもする。ひとりで、子どもたちだけで、親子で、じっくり話をしたり、歌を歌ったり、物思いにふけったりする。

ディスカバリー3の2列目シートに陣取った。近ごろではめずらしい、肩より低いところまでガラス面がくる広々した窓には新しい景色が次々と流れていく。高いアイポイントからは進む方向がよく見渡せ、明るい視界が広がり、天窓には空。足が組めるほど広いうえに、実際以上に広々と感じる。

その見晴らしのよさは、座面が後列に行くにしたがって段々と高くされることで3列目にもきちんと用意されている。それでいて3列目でも頭上には余裕があって、2列目同様に窓際にはオーディオスイッチが用意され、頭上には天窓も忘れず口を開けているから、まったく隅においやられた感がない。子どものものにするのはもったいない上等な秘密基地だ。

どの席にも、クルマの中ならではの親密感と解放感が共存する独特の居心地のよさがある。繊細に制御されるエアサスペンションのたまたものか、硬めのフラットライドで、家族みんなが同

じスピードで移動していくというのは楽しい。ジャガーの4.2リッターエンジンをボアアップして4.4リッターにしたというV8はトルクたっぷり、出足もいい。街中を流していると2000回転に届くのはたまのことだから静かなものだ。ニュアンスが大事な繊細な話題にも充分耐えるし、搭載されるハーマン・カドソン社製のオーディオシステムで音楽を楽しむにもいい。

そんなリアシートから見える大人には、かっこよくあってもらいたい。ふだんはダメっぼさがウリのお父さんも、運転してる時はなんかキリッと強そうで頼れる、みたいな。

ディスカバリー3ならドライバーはどんな悪路にも怯まずにいられる。事前にしておくことは、これから走行する路面をシフトレバー後方のダイヤル

で、オンロード・滑りやすい路面・泥や轍・砂地・岩場の中から選んでおだけ。そのダイヤルのすぐ後方にある黄色いHDC(ヒル・ディセント・コントロール)スイッチに手を伸ばさなくても、HDCを含めた様々な電子デバイスを制御して難



サンプルカーはトップグレードのHSE。ハーマン・カドソン社製のオーディオシステムや2/3列目用オーディオスイッチはHSEだけの装備だ。後席用天窓は中間グレードのSEにも付く。

すわ立ち往生!?なんて時、HDCよりDHCのほうが身近なお母さんでも、「大丈夫よ」ってリアシートに微笑むことができる。そんなお母さんはリアシートの子どもの目に、強くてかっこいい、アンジェリーナ・ジョリーみたいに映るかもしれない。

機能美に長けたデザインは、オフロード性能を忘れてしまふほど洗練された印象。レンジローバーに若さをアレンジしたようなこのクルマ、子どもには贅沢させすぎな気がするが、「お父さん、かっこいい」なんて言葉がリアシートから聞こえてくれば悪い気はしないはず。もっばら運転席だからとおろそかにするなかれ。リアシートはひとのためならず、なのだから。

Text: 竹井あきら / Photo: 五条件好

